日本骨髄バンクニュース vol.7

NEWS

1995.11.10
発行：財団法人 骨髄移植推進財団
発行責任者：小池欣一（理事長）
編集責任者：森眞由美（普及広報委員長）
〒160 東京都新宿区新宿1-4-8新宿小川ビル4F
TEL 03-3355-5041　FAX 03-3355-5090
郵便振替口座：00130-2-609313

骨髄移植500例達成

誰が見たって元気いっぱいの移植を受けたこの5人

私達みんな頑張ってます

骨髄バンク事業が始まって3年半、今年9月末現在
ドナー登録者は67505名、移植数は523例になりました。
多くの方々のご理解とご支援が実を結んだ結果です。
移植病院の拡充、マンパワーと財源の確保など
まだまだ山積している問題の解決
そして一日も早いドナー登録10万人をめざして
この5人に集約された笑顔こそが
その熱意と努力の原動力になることでしょう。

MESSAGE

500例記念交換メッセージ

見知らぬあなたへ

●命をありがとう

いつもの健康診断で異常が分かった時。適合者が見つかった日。そして両親、兄弟、妻とこどもが見守ってくれる中、無言で点滴が落ちるのを見つめ「よかったね、提供してくれた方に感謝しなくちゃね」インターホン越しの妻の声に胸が迫り、うなずくのがやっとだったあの一瞬。私の人生にとって決して忘れられない特別な時の流れでした。「精一杯生きること」せめてものお返しの気持ちです。

（山梨県YO・29歳）

●分かちあう喜び

提供前と同じ気持ちで毎日を送っています。あいかわらず、健康には自信があるけれど、気が小さくて涙もろい私です。人が言うほど勇気があるとか、強いとか、特に力んだ気持ちがあったわけではないのです。ただ「母の意思ですから」と言い切って同意してくれた娘とのきずなが、より一層深くなったと感じています。患者さんもつらい経験を通して得られた何かを大切にしてください。

（東京都SK・48歳）

美容師として復帰もまぢかの白水豊さん。目下、友達の頭髪を練習台に腕ならし。

旅館の若ダンナ&板前の山崎揚久さん。調理場で腕を振るえるのは味覚が元通りになったればこそと…。

子供は正直。元気になったとたんわがままいってくれちゃって…。三人姉妹の母・毛塚翠さん。

つらかった3年前が嘘のよう元気になって、ナースへの道を考え始めているという木村千加子さん。

マスコミ関係の仕事に完全復帰。バリバリのキャリアウーマンの大竹文さん。秋はワインの季節！とか。

東京コミュニケーションアート専門学校上演 骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」上演会場ロビーにて。

特集

コーディネーターを追って

取材・小玉徹子

ドナーを見守るもう一つの視線 心強い縁の下のちから持ち？

医療の舞台に立つのは医師と看護婦だけれど、コーディネーターの存在なくしては骨髄バンクの舞台は回らない。MKさんとKKさん黒子に徹した活躍ぶりが、何よりの証明です。

1st ——3次検査まで

9月○日の昼すぎ、MKさんは某病院の受け付けロビーでドナーと待ち合わせていた。手に持っているのは骨髄移植推進財団のブルーの封筒。これで、ドナー候補者（以下ドナーとする）は迷わず、すぐにMKさんと分かる。

大事なのは信頼感

MKさんがドナーと実際に会うのは今日が初めて。

2次検査で適合したドナーには事務局からの初期コーディネートが行われ、ここを通過したドナーへ担当コーディネーターが知らされる。MKさんは時機を見計らって電話を入れる。いよいよコーディネートの開始である。バンクの説明や提供意思の確認をしながら、面談日や3次検査の日程調整をする。担当の調整医師にも連絡を怠らない。スムーズに進まないこともしばしば。何度も電話。ドナーの都合で夜間の連絡も。それでも、ドナーの話をじっくり聞く。必要に応じて面談前にビデオの送付もする。自然と「MKさんにならどんな疑問でも気軽に聞ける」という信頼関係ができると、初対面でも「何だか初めての気がしなくて」ということになる。

3次検査のため採血するドナー。そばで見守るMKさん

関東地区調整委員会事務局
コーディネーターMKさん

信頼され、頼られることへの責任と緊張
誰かのお役に立てるという実感が心を豊かにしてくれるんです

説明は淡々と正確に

調整医師とともに面談。重ねて「骨髄提供とは」に始まり、現段階と今後の流れを説明した上で提供意思を再度確認する。調整医師もコーディネーターも患者がどこの誰か、どんな状態かなどについては一切知らされていない。あくまでもドナーの自由な気持ちを尊重するためだ。MKさんは慎重にことばを選んで淡々と話をする。どの段階でもコーディネーターが気持ちを決めかねているドナーを説得することは決してない。

調整医師の問診や簡単な診察の後、3次検査のための採血（40～50cc）。MKさんは採血後のドナーを病院の玄関まで見送った。

2nd ——最終同意

3次検査の結果、ドナー適格者として選ばれると、最終的な提供の意思確認の運びとなる。コーディネーターと調整医師は第三者の立会いのもとで、ドナーと家族に骨髄提供について詳しく説明する。

患者が移植のための準備に入ってしまうと、大量の薬の投与や放射線照射によって骨髄は血液を造

STUDY

コーディネーター・勉強会

9月/14日

関東事務局による勉強会が開かれた。9月から弁護士の立会いが始まったのを機に、最終同意説明会の意味、同意の法的意義について再確認するのが目的である。講師は財団の企画管理委員の小山正紀弁護士。コーディネーター等40名が参加した。

ドナーや家族に説明する際「こんな言い方でよいのだろうか？」「同意成立の条件は？」「正しい同意書の作り方は？」などなど。実際の場面で生じた疑問に、小山弁護士から法的な解釈や手続き上の注意が的確に示される。

終了時間を過ぎてなお、白熱した質疑応答は続いた。

コーディネーターってなあに？

WHY

ドナーコーディネーターは、ドナー候補者に対し骨髄提供について十分な説明を行い、何度も提供の意思を確認する。もしドナー候補者に迷いや疑問が生じたときは、必要な情報提供や専門医の説明などを準備し、意思決定が誰からも強制や誘導、懇願を受けず本人の「自発的意思」によってなされているかを見守る。そして健康診断時や採取の前後には病院を訪問し、ドナーに不都合がないか確かめる。

コーディネーターは、骨髄移植推進財団が定めた研修（専門的な知識の習得と実務研修など）を履修し、かつ適格と認められた者で、現在121名のコーディネーターがそれぞれ全国8地区の地区調整委員会事務局を拠点に活動している。

従来からの医師コーディネーターに加え特に、平成6年6月から約6ヵ月にわたり養成された一般公募からのコーディネーターは、コーディネーター不足を補い、調整医師とともに迅速で適正なコーディネートの遂行に努めている。

れない状態になる。この時期になって、ドナーが提供意思を撤回すると、患者の生命が失われる可能性がある。

最終同意は大切な約束なのだということを十分に理解してもらわなければならない。

弁護士の立会いのもとに最終同意

ドナーの気持ちに寄り添って

全くないとはいえないリスクについてもきちんと説明する。かといって、特に熱弁を振るうという感じはなく静かな口調。ドナーの側に立って、気持ちに寄り添うという姿勢の表れなのである。

十分な理解と同意が得られたら同意書を作成し、ドナーと家族に署名捺印してもらう。弁護士などの第三者は立会人として、十分な説明と真に自由意思が尊重されているかどうかを確認する。

同時に何組もの、進行状況の異なったドナーを抱え、しかもそれぞれに同じように丁寧に対応しなければならない。MKさんの毎日は、なかなかに多忙なのである。

3rd ——骨髄採取

9月も末、KKさんは明日の採取をひかえ一昨日から入院しているドナーを見舞う。ドナーに病院の雰囲気やその日の体調、気分など質問しながらアンケート用紙に書き込む。3次検査で適合したと知った時、「やったあ！」と思ったというドナー。最終同意後の健康診断、採取後の貧血に備えての自己血採血と見守り続けてきたKKさんにもすっかり打ち解け、リラックスしている様子に一安心。

翌・採取当日も、麻酔がさめたころに訪問する。「ご苦労さま」何はさておいてもまず、ドナーの労をねぎらう。自己血輸血を受けているが元気で顔色もよく、軽いのどの違和感を除いて、順調に回復していることを確認して、アンケート用紙に書き込む。

麻酔からさめかけた時、医師が「あなたの骨髄はもう、患者さんの所へ向かっていますよ」というのを聞いて「やったあ！という気持ちが2倍にも3倍にもなりました」と感動して話すドナー。「点滴の苦痛や腰痛もあるだろうに」と思うとドナーの気持ち、無償の善意に「ただただ頭が下がります」とKKさんも喜びを共にする。

採取前日のドナーと話すKKさん

生命への感謝と分かち合う感動

一つ一つの出会いが胸にずしーんと残りますね

関東地区調整委員会事務局 コーディネーターKKさん

4th ——フォローアップ

家に帰ったドナーに電話を入れる。元気な声が返ってくる。「疲れやすくはないか、痛みはないか生活や仕事に支障はないか」など19にわたるチェック項目の全てがOKになるまで、週毎にフォローは続けられる。

退院後の健康診断の際、患者の方も順調のようだと伝えられたと自分のことはそっちのけで喜ぶドナー。「ありがとうございます」とお礼をいわれKKさん、またまた感動してしまう。

今後、同じドナーをコーディネートすることは、確率的にほとんどない。だからこそ、一つ一つの出会いが胸に残る。「またいい出会いが重ねられました」とKKさんは言った。

採取後のドナーを見舞うKKさん

（調整医師）骨髄移植に精通した全国各地の専門医の中から、財団がコーディネート業務を委嘱した医師
（事務局）ドナーコーディネートについての全般的な進行管理を行なう
（初期コーディネート）文書や電話による提供意思確認や健康状況のアンケート等を行ない、適格性を判断

骨髄バンクの現状と今後

骨髄移植推進財団副理事長
高久 史麿

インタビュー
収録：１９９５年10月13日
国立国際医療センター総長室

皆さんの熱意と努力に敬意を表し さらにバンクの躍進を図る

採取・移植条件の整備と改善に欠かせないマンパワーと財源の確保

予想を超える移植実績

――日本骨髄バンクを介しての非血縁者間の骨髄移植が５００例を超えました。まずバンクを育ててきた立場からの感想を。

91年12月の設立当初から、５年間でドナー登録数10万人を目標にかかげてきましたが、最近やや伸び悩んでいるようなので、心配しています。

しかし、移植の実施数では1年目はせいぜい30～40例程度と思っていましたが、実際は86例、その後2年目以降も、予想をはるかに超える実績があり順調に推移していると思っています。

骨髄バンクが多くの関係者の熱意と努力によって、ここまで大きく発展してきたことに感慨を覚え、改めて皆さんに敬意と感謝を表します。

今年は３３０例前後の移植が予想されます。世界の骨髄バンクを見ても最も歴史の古いイギリスでも年間２３０例程度、約10年の歴史をもつアメリカのバンクでは、年間９００例ぐらいですから、日本は人口比から見ても遜色のない結果を生んでいると思います。

ドナー登録者の増加で適合率アップ

――ドナー登録者数の増加で、最近では登録患者のうち3人に2人はＨＬＡ適合のドナー候補者が見出せるようになりましたね。

皆さんのご協力により、ドナー登録者は６７、５０５名（9月末現在）になっています。特に最近は若い方の登録が増え、登録された方の半数ちかくは20歳代の方と聞いています。患者さんとの適合率もアップし、最初の検索では4～5割の方が1人以上のドナー候補者を見出しています。遅くても3カ月以内には患者さんの約7割の方がドナー候補者を見出せるようになりました。

しかし一方では、ドナーご本人の気持ちが変わった方や健康を害された方家族の同意が得られない方、連絡先不明の方などもあり、うまく運ばないこともありますね。その間に患者さんが亡くなっていくケースも出てくるとい

THANKS

広げてください支援の輪を！

骨髄バンク事業は多数のドナー登録者がいて成り立っています。善意と健康で支えあう国民の財産ともいえる制度です。

そして、様々な個人、企業団体による普及啓発活動と寄付によるご支援があって、はじめて発展していきます。

基本財産ご寄付6億8千万円

財団の運営は基本財産の運用によりまかなうのが原則です。財団設立時より経済団体連合会を窓口として、また個別にも各経済界や企業団体に基本財産拡充の寄付要請をしています。発足より本年3月までに6億8千万円のご寄付をいただき、基本財産として積み立てることができました。

運営資金ご寄付3億6千万円

毎年、多くの個人、企業・団体の方々から運営資金をご寄付いただいております。財団発足から本年3月までの約3年間に、ご寄付の累計は約5千件・3億6千万円（サポーターの方々の寄付金を含む）になっています。毎年、定期的に応援してくださる賛助会員制度による寄付も累計1千５００万円となりました。

う現実もあります。

1日も早くドナー登録者が10万人になって、多くの患者さんに生きるチャンスができるよう努力を続けたいと思っています。

移植成績向上には治療技術の向上とコーディネート期間の短縮が

――ところで、移植の成績はどうでしょうか。

欧米に比べても、遜色のない成績を示しています。移植した500人の患者さんのうち、約6割の方は生存しています。移植直後の方もおられますので、この数字はもう少し減る可能性はありますが、欧米よりむしろ良いくらいです。

ただし、ドナー候補者が見つかってから移植までの期間は6～8ヵ月が平均ですが、このコーディネートの期間をもう少し短縮できないか、条件の整備や改善を重ねていかなければと考えています。すでに、財団の委員会には移植成績を評価し、改善する取り組みやコーディネートの適正・迅速化のための部会が設けられており、様々な角度から検討しているところです。

受け入れ体制の拡充も

――無菌室や移植病院は足りていますか。また、移植成績向上のためにも骨髄移植・採取センターの設置が必要との声も聞こえてきますが。

確かに、ドナー登録が増えコーディネートが進むにつれて、移植件数も増えています。施設の問題は真剣に考えなければならないことです。

無菌室は、現在全国の病院に300以上ありますがフルに機能しているか疑問です。第一に医師や看護婦などの人手不足で稼動率が悪いこと、第二は昨年4月に診療報酬が改定され、無菌室看護加算料や採取・移植術料も引き上げられたとはいえ、まだまだ十分ではないことが問題となっています。特に骨髄採取料については大幅な引き上げを要望しています。

アメリカのシアトルにあるような大規模な施設ができればいいのですが、現状ではたいへんに難しく、日本では総合病院の中に併設して、拡充していくのが現実的でしょう。採取センターについては、全国に数ヵ所センターを作ることなどが考えられます。それには、やはり専任の麻酔医を増やすなどのマンパワーと財源が必要なんですね。そのためにも当財団の財政基盤の確立が急務です。

広く一般からもサポートを

――財団の財源はどのようになっていますか。

財団の運営経費は、今年は約5億円かかる見通しです。財源としては国からの補助金が全体の運営資金の約2割

高久 史麿 たかくふみまろ

PROFILE

1954年　東京大学医学部卒業
同大学医学部第三内科教授
同大学医学部長
国立病院医療センター
（93年国立国際医療センターと改称）院長を経て現在、同センター総長、東京大学名誉教授
骨髄移植推進財団副理事長

THANKS

こんなご支援の方法もあります

骨髄バンクの発展のためには、もっと多くの支援の輪と資金を必要としています。いつもお願いばかりで恐縮ですが、こんな方法もあることを紹介したいと思います

■普及啓発

社内報、健康保険組合誌での特集企画掲載。ビデオニュースなどの放映。

■資金援助・寄付

会社の創立○年を記念してのご寄付。会社、労働組合の社会福祉基金からのご寄付や募金。

（財）骨髄移植推進財団の財政収支状況

平成6年度（平成6年4月～平成7年3月）単位・百万円

（収入の部）		（支出の部）	
国庫補助金等	116（26）	広報活動費	124（28）
患者負担金	226（51）	調整活動費	150（34）
寄付金	90（20）	検査保険料	114（26）
基本財産利息	10（3）	管理費等	54（12）
合　計	442（100%）	合　計	442（100%）

〈注1〉基本財産への寄付・繰入れ支出は除いています。

〈注2〉国は骨髄バンク事業推進のために日本赤十字社、都道府県、骨髄移植推進財団、骨髄移植医療研究班に対して、合計約4億円を補助しています。

ドナー・フォローアップ報告

骨髄採取前後のドナーの健康を守るため、財団ではドナー・フォローアップ部会を設けています。骨髄提供の全ケースについて、コーディネーターの面接確認と採取施設からの医学的データ報告、さらに提供後のドナーアンケート調査により、多角的に検討しています。これからも、ドナーの方々の安心感を高め、健康を守るために努力していきます。

ドナーフォローアップ部会・秋山祐一

■骨髄提供に関するドナーアンケート

総数277名（～'94年集計138名、～'95年6月集計139名）

質問事項	回答（単位・%）			
骨髄提供に不安はありましたか	全くなし	44	非常にあり	2
	少しあり	53	無回答	1
麻酔の苦痛はどのくらい?	軽かった	69	重かった	5
	普通	25	無回答	1
採取部位の痛みの程度	軽い	43	重い	13
	普通	43	無回答	1
骨髄提供に対して	満足している	82		
	特に何も	18		
もう1度骨髄提供を依頼されたら	提供する	76	わからない	16
	提供しない	8		

■ドナーアンケートより〈1〉

「骨髄提供体験に満足している」と答えた人が82%、「もう1度提供してよい」が76%おられます。

一方、「採取部位の痛みが重い」が13%で、日常生活復帰にやや時間を要する場合もあります。骨髄提供にともなう合併症で大きなものは報告されていませんが、入院の延長などで保険給付された事例が3件ありました。うち1件は痛みを押さえる採取後の硬膜外麻酔でめまい、頭痛が発生。1件は採取針の破損で切開を要したもので、両者ともすみやかに回復しています。もう1件は腰痛の既往のある方で、採取後に腰痛が顕在化して、再入院が必要でした。

潜在的に腰痛のある方などは、症状が顕在化することがありますので、3次検査時の問診を強化することになりました。自覚症状がなくても潜在疾患のある方は、提供できないことがあります。提供直前の休日の転落事故（軽傷で提供に支障なし）、激しい運動による検査値異常（採取が2日延期）がありました。

骨髄ドナーとして待機中、直前の休日は是非ゆっくり静養されることをお願いします。

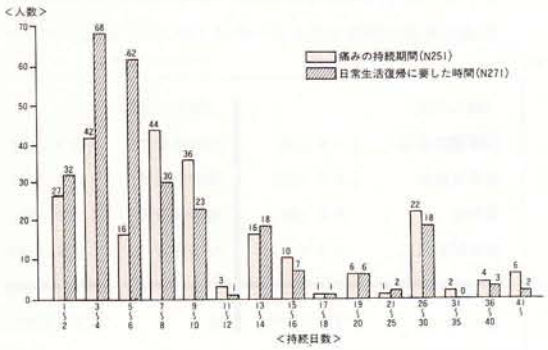
■ドナーアンケートより〈2〉

痛みの持続時間と日常生活復帰に要した時間は、ドナーご自身の自由記載によるものです。

約20%のドナーの方々が予想より比較的重い負担と感じられています。採取時間に長時間を要した場合に負担が大きくなることがNMDP（米国骨髄バンク）から報告されています。また、日常生活に復帰後、体に大きな負担のかかる肉体労働は回復に関係すると考えられます。

採取が決定したら是非、コーディネーターや採取担当医とご自身のスケジュールを綿密に調整してください。

痛みの持続期間&日常生活復帰に要した期間



企業や個人からの寄付金などが約3割患者負担金が約5割となっています。毎年6～7千万円ずつ経費が増加していますので、財政は非常に厳しく、まだまだ足りません。一般の人にも広く「サポーター」として基金を募っているところです。

教育の場にもバンクの必要性を

――最近のドナー登録者数の増加の伸び悩みにはどんな対策が考えられるでしょうか。

まず、学校教育や社会教育の中に骨髄バンクの必要性が浸透するよう働きかけることです。それに最適なビデオもできましたので大いに活用していただきたい。また、地区普及広報委員も委嘱されますので、地方自治体やボランティア団体ともタイアップして広報活動を推進していただけることと期待しています。

登録する方には、できるだけ便宜を図ることも大切です。従来から指摘されている1、2次検査の同時実施、登録場所や時間帯の拡大など、国を通して、日本赤十字社（血液センター）や都道府県（保健所）にも協力を仰ぎたいと思っています。

そして、ドナーになっていただく方が安心して休みがとれるよう、各会社にはドナー休暇制度などを設けていただき、ご理解ご援助いただければと思います。

ドナー負担の軽減国際協力への取り組み

――最後に、将来の展望を。

ドナーの負担軽減、安全を第一義的に考え、医学的にも問題がなく、関係機関のコンセンサスが得られれば、麻酔や骨髄せん刺によらない、末梢血からの「骨髄幹細胞」の採取に一日も早く切り替えたいと考えています。将来は、さい帯血移植なども有効に検討されるものと思います。

また、国際協力も重要な課題です。アメリカとの連携をはじめとして、将来はアジアのネットワークづくりに日本が果たす役割は大きいと思います。

THANKS

■労働組合のご支援

組合として、ポスターや機関誌での呼びかけや支部ごとの勉強会の開催、各職場での募金、サポーターの募集をしていただいています。

■楽しくユニークなご寄付

スーパーノバ・シャムは「マウンテンバイク・ラリー」で参加者に、実際に走った1周ごとに200円のカンパを呼びかけ、ご寄付くださいました。

城南ロータリークラブ（東京）は「目黒川チャリティーウォーク」を開催し、協賛金をご寄付くださいました。

ドナー休暇制度

公務員に続いて、NTT、NHK、日本航空、全日空、日本エアシステム、製薬会社など多数の企業で導入いただいています。

DATA-REPORT

日本骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植は、95年９月上旬に累計500例となりました。再移植を受けられた２名を含みますので、患者さん498名のうち生存者は294名（入院中121名、退院173名）で、残念ながら204名の方が亡くなられています。

非血縁者間骨髄移植の状況

症例数 500

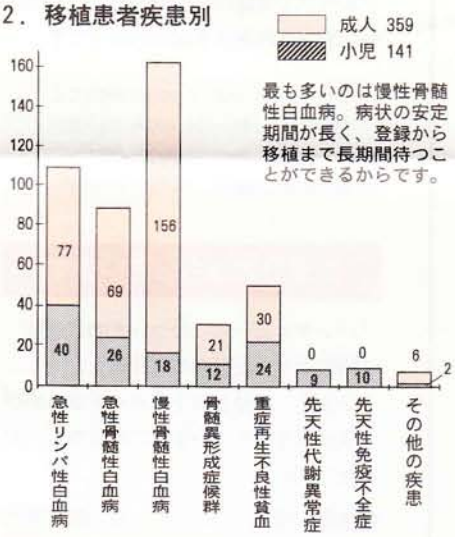
■移植患者の状況

1．非血縁者間骨髄移植実施状況

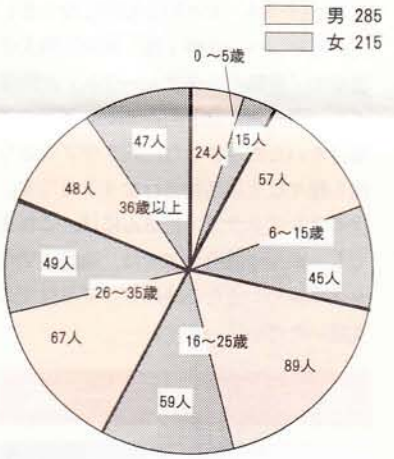
	H５												H６												H７								
年間	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月間	1	2	5	1	9	6	10	4	12	12	17	7	7	13	17	11	15	22	17	11	19	21	22	8	22	33	30	27	19	38	33	27	2
累計	1	3	8	9	18	24	34	38	50	62	79	86	93	106	123	134	149	171	188	199	218	239	261	269	291	324	354	381	400	438	471	498	500

９月は初旬までの統計

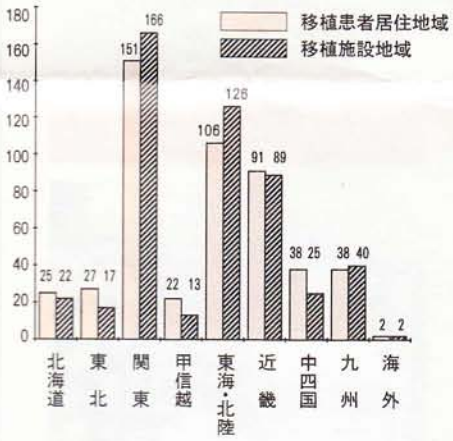
2．移植患者疾患別



3．移植患者年齢・男女別

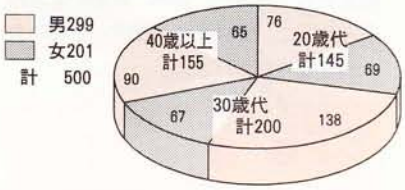


4．移植患者居住地域別および、移植施設地域別



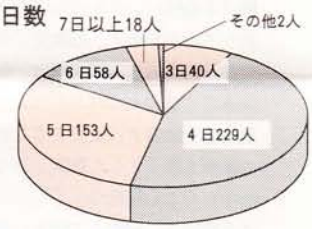
■提供者の状況

1．提供者年齢・男女別

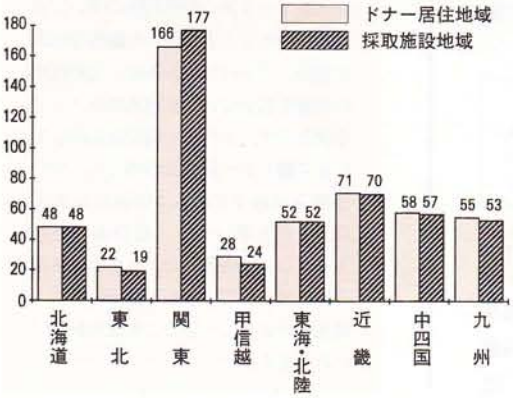


提供者では男性が多い。採取後の貧血防止上、患者体重の80%以上のドナーを選ぶからです。ドナー登録状況では20歳代が42%でトップ。30歳代・38%、40歳代（含む50歳）20%となっており、実際の提供ドナーの年代分布とは少し異なった傾向を示しています。

2．入院日数



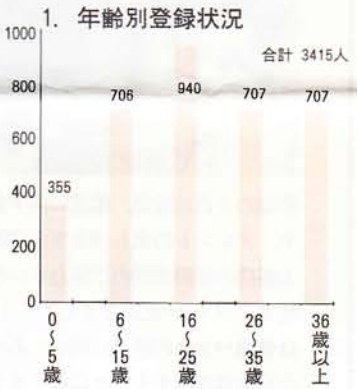
3．採取ドナーの居住地域別および、採取施設地域別



骨髄移植希望患者登録状況（累計）

平成７年９月末

1．年齢別登録状況



2．疾患別登録状況

骨髄バンク事業の現況

HLA適合患者・ドナーの状況（累計）

（平成７年10月９日現在）

患者の状況		ドナーの状況	
検索依頼患者数	3,432人	１次検査(A,B座)適合ドナー数	55,070人
		２次検査(DR座)実施済ドナー数	44,472人
２次検査(DR座)適合患者数	2,316人	２次検査(DR座)適合ドナー数	8,154人

INFORMATION

全国大会'95開催

骨髄バンクの存在と意味を、一人でも多くの人に知ってもらおうと、今年も「骨髄バンク推進全国大会」を開催します。骨髄バンクの現状報告の他、記念行事としての企画を考えています。どなたでも参加できます。たくさんのご参加をお待ちしています。　（入場無料）

日時　平成7年12月16日（土）
　　13：00〜16：00
会場　江戸東京博物館・ホール
　　東京都墨田区横綱1－4－1
　　ＪＲ両国駅より徒歩3分
問合せ☎03－3355－5041
骨髄移植推進財団

高校生向けビデオ完成

ある患者さんの「骨髄移植」を通して、命の大切さや支えあいを、教育の場にもしっかりと根づかせたい。そんな意図のもとに、34分の高校生向けビデオ「いのちのボランティアー骨髄移植」(桜映画社製作・中外製薬提供)が完成し、発表会が行なわれました。中外製薬様のご厚意により、全国1000ヵ所の視聴覚センターに寄贈され、高等学校や一般市民に無料で貸し出されます。ぜひとも授業などに取り上げてほしいと思います。

ライオンズクラブ街頭キャンペーン

ライオンズクラブ国際協会330－A地区（宇田川雄弘ガバナー）は、今年度より都内182クラブ（8,500名）全体での骨髄バンク支援を決定し、従来の献血委員会を「骨髄移植推進・献血委員会」に改組し、積極的な活動を開始しました。
その第一弾として、国際ライオンズデーにあたる10月8日一斉街頭キャンペーンを実施しました。折からの雨にもかかわらず、同クラブのメンバー約2000人が都内90ヵ所の主要ＪＲ・私鉄駅頭に立ちドナー登録と募金を呼びかけました。当日はタレントの東ちづるさんや安部譲

二さん、大相撲力士の豊ノ海関、五剣山関、歌手の千葉和臣さんと中牟田敏男さん（海援隊）、古代真琴さんと水野たかしさん、Ivory Gate、高田真快和尚などもかけつけ、大々的なものとなりました。キャンペーン終了後、東京医科大学講堂で「骨髄バンクフォーラム」が開催され、当日の街頭募金を含め、多額のご寄付をいただきました。同クラブでは今後も様々な支援活動を行なう予定です。ライオンズクラブの皆さんには、これまでも、東海や関西などでは、地区、ブロック単位で、また各地のクラブ単位でご支援いただいています。

貴闘力関の新ポスター完成

野球の王貞治監督、柔道の山下泰裕元選手、タレントの東ちづるさんに続いて、大相撲の貴闘力関のご協力をいただき、新ポスターが完成しました。11月中には骨髄バンクの新しい顔が、あなたの街にもお目みえすることになります。

■日本小型自動車振興会から補助■
今年度も、普及啓発ポスター、パンフレット、リーフレットの印刷物は「オートレース公益資金」の補助を受けました。

12月は「骨髄バンク推進月間」

全国各地で多くの市民の目にふれる取り組みと参加を呼びかけます。職場の同僚や友人にパンフレットを見てもらう。近所のお店にポスターを貼ってもらったり、パンフレット立てを置いてもらうなど、できる範囲で、皆さんの創意あふれる取り組みを期待しています。

サポーター募集

骨髄バンクの機能を本格的に発揮させるには、多くの資金が必要です。骨髄バンクのサポーターや賛助会員として、善意のドナーと骨髄バンクを支えてくださるよう呼びかけをしています。個人、企業グループで骨髄バンクを応援してください。お振込み先は下記のとおりです。

サポーター　1口　1,000円（何口でも）
賛助会員　年　100,000円（法人団体）
　　年　10,000円（個人）
郵便振替口座番号　00130－2－609313

お便りお待ちしています

「バンクニュース」についてのご意見、ご感想など、読者からの投稿をお待ちしています。皆様と紙上キャッチボールができればと考えています。たくさん、お寄せください。

■本紙の発行については、日本赤十字社のご協力により、すべての登録ドナーに送付させていただいております。送付を希望されない方や、住所、氏名の変更のあった方は、登録先の骨髄データセンターへお知らせください。

編集後記

■日本骨髄バンクを介しての骨髄移植数が500例を超え、感無量です■元気になった患者さんの笑顔は、何よりの励みです■今号のバンクニュースより横書きを縦書きに変更するなど、紙面の刷新を図りました■親しみやすく、わかりやすい紙面づくりを心がけています■終始、和やかで明るい雰囲気で進んだ取材■登場のドナー候補者、患者さん、移植経験者、提供経験者、コーディネーター、関係病院の快いご協力ありがとうございました■移植施設の整備、マンパワーの増強、治療技術の改善と進歩など、移植成功率アップを図る上で、まだまだ難問は山積しています■ドナー登録数の増加も、やや足踏み状態です■500例達成を支えに、1日も早いドナー登録者10万人をめざし、関係者一同、ますます事業発展に努力していきます■皆様には、従来にもまして一層のご支援をお願いいたします――――――